

第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



高校生の部 優秀賞 受賞作品

『努力が人を裏切るなら、』

東京都

白百合学園高等学校

二年 関根 彩莉

努力が人を裏切るなら、

白百合学園高等学校 二年
関根 彩莉（せきね さり）

「努力は裏切らない」

誰もが聞いたことのある言葉ではないだろうか。これは、人生のモットーとして、信念として、激励の言葉として、などでよく使われる。苦悩の末に、メダルを取ったスポーツ選手、大会で優勝したチームの監督など、努力をして、最高の結果を残した人々が、まぶしい笑顔で言って、人々に希望を与える言葉。しかし、テレビでこの言葉を聞いて、すごいな、と思っても、私にはこの言葉が他人事のように響いていた。きれいごと聞こえるこの言葉が、正直あまり好きではなかったのだ。

「努力は人を裏切るよ。ここぞというときに、裏切るよ」

私は、額賀澤作の小説*『タスキメシ 箱根』でこの言葉に出会ったとき、一般的によく知られる「努力は裏切らない」と正反対だったため、少し驚いた。しかし、自分の過去の失敗の記憶を振り返ったとき、その失敗に現実の冷たさをもって、温かく寄り添ってくれるような、そんな気がした。

私は中学二年生の時、バレエの資格試験を棄権したことがある。資格試験の中盤、急に視界が白くなり、めまいが起こり始めたからだ。私は、それまで何回かめまいに襲われることがあったため、めまいが起こり始めた時は、少しじっとしていればだんだん治る、だから試験は続けられる、と考えていた。しかし、私は、めまいでとうとう立っていられなくなった。試験は中断し、私は試験会場のスタジオを退出せざるを得なくなった。それまで問題なく踊っていたのに、今までこんなにひどいめまいに襲われたことはなかったのに、今日までたくさんの振りつけを覚え、バレエと学校の勉強の両立を頑張ってきたのに。今までの苦労の意味や、自分だけ受からなかったと周りに知られる未来のことを頭でぐるぐると考えながら、自分の今の現実を受け入れられずにいた。スタッフの人と、バレエの先生に棄権するしかない、と言われ、頭が真っ白になった。悔しさと涙が止まらなかった。帰りの電車の中でも、涙が止まらなくて困った。立ち直るのに数日かかった気がする。私は努力に裏切られたな、と思った。

今まで、「努力に裏切られた」ことがある人々はたくさんいると思う。むしろ、人生の中で、「努力に裏切られた」ことの方が多いのではないだろうか。「努力は人を裏切る」なんて、冷たい言葉だと思う人もいるだろう。しかし、私は、この言葉はどうしようもない現実を、仕方がない、と受け入れる助けになる言葉だと思う。「努力に裏切られた」経験があつて、それでも、人は、いつか仕方ないと受け入れて、立ち直って、再び頑張る。そして、「努力は裏切らない」と思える結果にたどり着く。そう思うと、私は、「努力は裏切らない」という言葉が、きれいごとではない気がした。

私は、その後もバレエを続け、中学三年生の冬にあったバレエの発表会で、初めて、始めから終わりまで笑顔で踊ることができた。踊ることが楽しかったし、そう思えたことが心の底から嬉しかった。私の今までの努力が、意味のあるものに感じられた瞬間だった。今振り返っても、あのときの棄権や、悔しかった気持ちは変わらない。しかし、今の私はあのときの失敗を、そういうこともあったな、と思うことができる。

努力は人を裏切る。けれど、私は何度でも頑張ることができる。そういう思いを込め

て、

「努力は人を裏切る」

この言葉を、「推し」のように、日々の頑張る支えにして生きていくのを思う。

「裏切られた後の景色も、そんなに悪くないです。裏切られた俺、結構、頑張ってます。」

**『タスキメシ 五輪』で、そう返した仙波千早のように。

* 『タスキメシ 箱根』(額賀 滯 小学館 二〇一九年)

** 『タスキメシ 五輪』(額賀 滯 小学館 二〇二三年)